

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和7年9月定例会	
議案番号 議案名	議案第17号 令和7年度松戸市病院事業会計補正予算(第1回)
議員名・会派名等	市民力 湯浅文
賛否態度	賛成
賛否など態度決定に至った理由や討論	<p>※市民力は、本会議および委員会での討論という本来の発言を最大限に活かすことこそが議員の責務と考えます。非公式の場に、議会で発言してもいない意見を掲載するというやり方は、議員自らが議会における議論を軽視する行為であるとの考えから、以下、本会議・委員会など公の場で討論した内容を掲載いたします。</p> <p>議案第17号、令和7年度松戸市病院事業会計補正予算(第1回)について賛成の立場から討論いたします。</p> <p>本議案はプロポーザル審査により事業者を決定し、専門的な知見と経験を有する外部専門人材により再建案の分析・評価・実行支援を行うものとして、市立総合医療センター事業費用経費3200万円を計上するものです。</p> <p>これまで、市民力として再三指摘してきた問題解決に着手されると判断しております。</p> <p>質疑において、主に費用の内訳と成果物について、プロポーザルを実施するうえでの透明性の担保について、市民ニーズの把握と責任の所在について、この4点について確認をしました。</p> <p>まず、「業務委託内容と成果物及び金額の内訳」に関して、業務委託内容は現状の収支状況等各種データの分析、経営再建策の立案、経営計画の改定、包括的な支援とのご答弁でした。また、成果物は各種分析結果の報告書等との確認が取れました。金額の内訳は5名のチームで人件費相当分として約2900万円、諸経費等で約300万円の税込み金額との事です。委託料3200万円は高額です。成果物をしっかりと市民に示して下さい。</p> <p>次に、地域の声や市民ニーズの配慮については松戸市医師会や地域の医療機関・患者さんやそのご家族からの声などを事業者と共有し、市立総合医療センターに求められる役割等を理解してもらうとのご答弁でした。外部の方が本市の地域ニーズをどれだけ把握し、今後の市立総合医療センターの在り方について提案できるのかを懸念していましたが、市が現場の声をコンサルタントと共有すると確認することができました。今後、20年～30年先の市立総合医療センターの</p>

在り方について市民の想いを汲み取ったうえで具体的な数字を用いて提案できるコンサルタントを選定いただけるものと思っています。

また、外部のコンサルタントがプロジェクトチームを支援する運用となっていますが、責任の所在が曖昧になる恐れがあるために責任の所在について確認をしました。

最後に、選考するときの透明性の担保に関してです。コンサルタントを選考するうえで、透明性の担保は必要です。しかし、「選考委員会は非公開」「議論は概要のみ公開する」この状況では不透明であると言わざるを得ません。

また、委員のメンバーも職員であることから意見の偏りなどが懸念されます。一方でコンサルタント業務の特性上、ノウハウが流出してしまうこと、事業者が恐れて独自性のある提案が期待できなくなるなどの意見も一定の理解をすることができますが、意思決定プロセスを市民に知ってもらううえでも最大限公開に向けて動くべきです。

病院は「人の命や健康を守る」特別な役割があり、小児・周産期等、民間医療機関では対応が難しい不採算部門の領域を担うのが公立病院の本来の使命です。どんなに医学が発達しても毎年、一定数の割合で病気や障害のある子どもは誕生します。私のまわりの保護者の方々は「市立総合医療センターに小児科があって本当に良かった」と言っています。病気の子どもを育てるうえで、地域に通える小児科がある事が安心して繋がり子どもの命に直結します。

私の質疑に対するご答弁で責任の所在を明確にし、限られた医療資源を有効活用しながら、地域社会や市民に対して20年～30年先の将来も安全な医療を継続的に提供できる体制を再構築するであろうことに、一縷の望みにかけて、私の賛成討論といたします。